

令和6年度 事業報告書 鳳幼稚園

教育環境の充実

創立から12年目が過ぎ、幼児が育つ環境として園庭の樹木や遊具も整い、かなり充実したものとなってきている。夏になるとたくさんの樹木に止まっているセミ、その抜け殻に子どもたちは目を輝かせながら園庭で過ごしている。また、それぞれの木々の名前を書いたプレートを付け、子どもたちの科学的な興味を持たせるようなきっかけを作っている。

また、教職員は、幼児期の子どもにふさわしい関わりに努め、保護者からの信頼度は高くなった。職員の異動も少なく、卒園児やその保護者とも顔を合わせるとお互いに懐かしく声をかけあうことができ喜ばれていると感じている。在園児の保護者はもちろん、卒園児の保護者とも信頼関係ができ温かい支援と協力をいただいている。また、地域の方にも何かと声をかけていただき、毎年恒例のたんじり祭りへの参加に加え、今年度は地域の大鳥大社で宿舎を設けている荒川部屋の力士数人が園に出向き子どもたちと過ごすという取り組みも持つことができた。

教育目標達成

教育目標具現化に向けて一人ひとりの育ちの違いをふまえ、個性を大切にしながら日々の保育実践に最善を尽くした一年間であった。

- ・ 学年の枠を越えて、預かり保育時間帯やバス待ちの時間帯などの自由遊び時間帯に仲良く遊んでいる子どもの姿を園内のいたる所で見かける。改めての異年齢活動には取り組めていないが、自由登園では学年の枠を取り払っての活動を展開できていた。また、年長の子どもたちが年少の子どもたちの登園後及び降園前の着替えを手伝いに行くことで年齢が異なっても仲良く遊んでいる光景を見かけることが多くなっている。発表会前では年長の劇の練習を年少や年中の子どもたちが集中して見た後に、大きな拍手をする姿があった。
- ・ 絵画、制作活動を通して個々の子どもたちが伸びやかに表現活動に取り組んでいる。
- ・ 気持ちの良い挨拶を交わす子ども達
 - ・ 「おはようございます。」
 - ・ 「有難うございます。」
 - ・ 「さようなら。」子どもたちの性格によっては小さな声でしか挨拶できない子や、恥ずかしさのあまり挨拶できない子もいるが、無理のないようにこちらから声をかけて挨拶しやすい雰囲気を作るようにしている。
- ・ 仲良く活動する子ども達の姿が多く見られるようになった。
- ・ 運動会、作品展、音楽・生活発表会の後の保護者アンケートでは、年々改善されているとの言葉を多くいただいている。

めざす子ども像

- ◎挨拶上手な元気な子
- ◎輝く笑顔の子
- ◎友だちいっぱい幼稚園だいすきな子

教育目標達成に向けて「教育愛」を保育者としての基本姿勢とし、次年度も引き続き望まれる保育者像として取り組む。

オリジナル活動

1. 自然の中の体作り

- ・乾布摩擦
- ・登山（榎尾山）※年中、年長

2. 子どもたちへ心こめて

- ・卒園アルバム
- ・お誕生カード
- ・園だより
- ・行事プログラム（運動会・作品展・音楽生活発表会・入園式・卒園式等）

3. 絵画・制作活動

- ・絵画については専科指導講師により教員の研修を行うことで、絵画指導だけでなく絵画を通しての園児理解や園児の発達の状況を把握でき、指導力の向上がみられる。
- ・一年間を通して熱心に取り組んだ成果は、子どもたちの喜々とした日常生活の姿に認めることができた。また、全国教育美術展において、多数の園児が特選や佳作と入賞した。

教職員の研修

- ・オンライン研修及びまだ対面研修も少しあったが、計画的に参加し全教員の資質向上に努めた。
- ・園内研修の充実に努め各領域の講師を要請し、年間の研修計画に基づいて取り組んだ。
- ・新任教員のための3園合同研修 令和6年度実績9回、令和7年度も継続
- ・大阪府教育委員会主催による園長研修、幼児教育アドバイザーフォローアップ研修お、幼児教育アドバイザー育成研修、新規採用者研修、その他研修を受講
- ・堺市私立幼稚園連合主催の新任研修および各研修、大阪府私立幼稚園連盟主催の各研修に参加
- ・全職員による全クラス公開保育を実施し、教職員の意欲および資質向上につながった。
- ・園内研修として毎月のドキュメンテーションによる保育の振り返り、年度末の振り返り研修を実施
- ・救急救命士による救命研修を実施

子育て支援事業

- ・自由登園は希望する園児が登園し、設定保育では遊びの場を広げた。
- ・家族登園は年間3回の実施となったが、3月実施のふれあい広場では学年ごとに家族と共に参加して行い、多くの親子に喜んでいただけた。また、当日午後には昨年度の卒園児を招いての同窓会を実施し、ほぼ全員に近い参加状況で成長した姿を見ることができた。
- ・預かり保育は内容も充実し、早朝・延長保育を利用する園児も増えつつある。おやつは、手作

りおやつを週に一度提供し、子ども達にはうれしいおやつタイムとなっている。継続し、内容・質的向上に努めたい。預かり保育時間中は、家庭的な雰囲気工夫し子ども達にはやすらぎの時間である。子どもの自由遊びと休養を考慮しながら、集団での育ちを期待した上で保護者のニーズに応えた。園と保護者が一体となった子育て支援活動に一定の成果をみる事ができた。

- ・土曜日の預かり保育についても、午前8時より午後6時までの10時間の預かりを保証し、毎週のように、ほぼ固定した利用状況であり、子育て支援の一役を担っている。

以上